

健康ぷらざ

No.238

企画:日本医師会

軽く見えてはいけません。

低温やけど

電気ごたつや温風ヒーター、湯たんぽ、あなか、カイロ、電気カーペット……。心地よい暖かさですが、長い時間皮膚に作用し続けると

「低温やけど」が起ることがあります。

すね、かかと、くるぶしなどは、すぐ下に骨があるので、

熱源が押し付けられると血液の流れが悪くなり、

加わった熱を血液が運んでいくことができません、

そこに熱がこもって低温やけどが引き起こされます。

特に糖尿病や脳卒中で感覚機能が低下している人、

暖房器具をよく使う高齢者や冷え性の人は

低温やけどになりやすいので注意が必要です。

疲れたりお酒を飲み過ぎたりして、

つい電気ごたつで居眠りするのにも要注意です。

低温やけどは一見軽く見えますが、実はずっと深いやけどで治りこへへ、

放っておくと手術が必要になることもあります。

思い当たる症状があったら、清潔なガーゼでおおって、

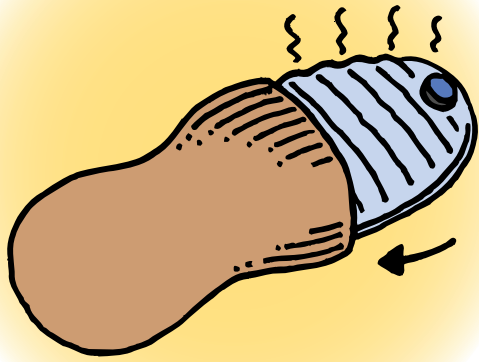
なるべく早くかかりつけ医を受診しましょう。



電気ごたつでうたた寝をしない。

低温やけどの予防

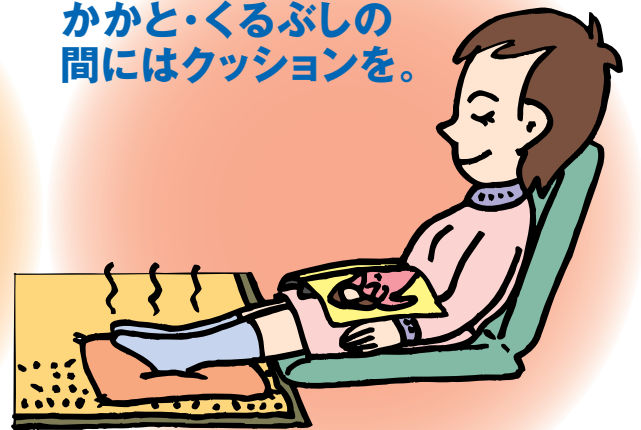
湯たんぽは厚手の袋に入れる。



カイロは皮膚に密着させない。



電気カーペットと かかと・くるぶしの間にはクッションを。



指導：日本大学医学部形成外科教授 佐々木 健司

◆待合室等に掲示し、患者さんにお見せください。